

# 宮崎県森連会報

発行 宮崎県宮崎市橋通西2-2-2 宮崎県森林組合連合会 電話0985(25)5133 2023年7月25日発行



第72回通常総会

## 目次

第72回通常総会を開催	1
臨時総会を開催	2
新任役員のご挨拶	2
(株)ゼロ・コーポレーションによる植樹プロジェクトの開催	3
「JForest 令和の森」下刈り作業を実施	3
松くい虫薬剤防除を実施	4
宮崎県森林組合職員連絡協議会 臨時総会及び役員会を開催	4
みやざき森林経営管理支援センター活動報告 (Vol.4)	5
森林組合初任職員研修会及び森林組合初任職員フォローアップ研修会を開催	6
令和5年度全国若手職員研修会に参加	6
木材市況	7



## 第72回通常総会を開催

当会では、第72回通常総会を6月12日、宮崎観光ホテルにおいて開催しました。

今年度の総会は、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5月8日から5類感染症とされたことから、河野俊嗣宮崎県知事をはじめ、県議会、九州森林管理局、県環境森林部、金融機関、関係団体などから多数の来賓をお迎えし、コロナ前に近い規模で開催しました。

また、今年度から新たな取り組みとして、開催形式を、会員のみによる前半の第1部と、来賓にも出席いただく後半の第2部の2部構成とし盛大に執行了いました。

第1部の通常総会の部では、会員全員によるJForest 森林組合綱領唱和の後、都城森林組合の柳田力男組合長を議長に選任し、令和4年度事業報告及び収支決算、令和5年度事業計画など全8議案が原案通り可決されました。

この中で令和4年度の事業報告においては、長引く新型コロナウイルス感染症の影響に加えロシアのウクライナ侵攻等によるエネルギーや原材料の価格高騰など、激動する世界経済の潮流に触れ、森林組合系統においては、新たな系統運動「JForest ビジョン2030」を策定し、森林・林業業界の抱える諸課題に向け系統一丸となって取り組むことなどを報告しました。最終的に会員の皆様や関係各位のご協力のもと、一般材の販売量が

1,334千㎡と前年度より61千㎡減少したものの、剰余金142,000千円余を計上することができました。

令和5年度の事業計画では、新型コ



長友会長挨拶

ナウイルス感染症により影響を受けた経済活動の持ち直しに期待する一方で、「ウッドショック」から落ち着きを見せる国際的な木材需給と価格の動向や、物価高騰による急激なインフレなどに注視しつつ、これまで同様にデジタル化やスマート林業への取り組みを継続させるとともに、高まる脱炭素社会の実現に向けたカーボンクレジットなどに活用できるJークレジット制度に会員組合とともに取り組むことで、組合員所得の増大や森林経営意欲の向上、さらには各組合と連携して再造林対策をはじめとする諸課題に積極的に取り組み、一層の経営強化に努めることとしました。

第2部の式典の部では、長友幹雄会長の挨拶や来賓祝辞をいただいた後、令和4年度の各事業の優良組合並びに永年勤続者に対して賞状と記念品の贈呈を行いました。また、一般材部門の最優秀賞の組合には農林中央金庫福岡支店長（代理丸山次長）より優勝杯が贈呈されました。

第72回通常総会で表彰を受けた組合と永年勤続者は次のとおりです。（敬称略）

### 事業実績表彰

#### 一般材の部

最優秀賞 西臼杵森林組合  
優秀賞 耳川広域森林組合  
躍進賞 延岡地区森林組合

#### 木質バイオマスの部

最優秀賞 西諸地区森林組合  
優秀賞 都城森林組合  
躍進賞 耳川広域森林組合

#### 森林保険の部

躍進賞 耳川広域森林組合

### 永年勤続表彰者

#### 30年勤続

奈須隆男（宮崎中央森林組合）  
立山 豊（西諸地区森林組合）  
中村文彦（児湯広域森林組合）  
甲斐美加（延岡地区森林組合）  
甲斐洋敬（耳川広域森林組合）  
仁田 要（耳川広域森林組合）  
清水光輝（宮崎県森林組合連合会）

#### 20年勤続

関屋克年（宮崎中央森林組合）  
本田智光（宮崎中央森林組合）  
曾我るい子（都城森林組合）  
黒木好恵（耳川広域森林組合）  
甲斐次延（西臼杵森林組合）  
甲斐 烈（西臼杵森林組合）  
後藤 恵（西臼杵森林組合）



## 臨時総会を開催

当会では、役員の退任による補欠選任を行うため、臨時総会を開催し、新役員が選任されました。

新役員及び退任役員は次のとおりです。(敬称略)

新任

理事 内田 千博 (延岡地区森林組合 代表理事組合長)

監事 村上由紀夫 (宮崎県森林組合連合会 監事)

退任

理事 工藤 良長 (前 延岡地区森林組合 代表理事組合長)

監事 小倉 康裕 (前 宮崎県森林組合連合会 監事)

## 新任役員のご挨拶



内田 千博

(延岡地区森林組合 代表理事組合長)

前任の工藤組合長に代わり、5月29日から延岡地区森林組合代表理事組合長に就任し、このたび、当会の臨時総会において理事に選任されました、内田と申します。森林組合に携わってまだひと月余りで、浅学な私にとって当会の理事就任は大変光栄に感じておりますが、その責務の重大さを強く感じております。当会の理事の方々は、組合経験が豊富な方ばかりですので、まずは皆さんの足手まといにならないように努めてまいります。

私は、平成29年に延岡市役所を定年退職し、以来素材生産業を営んでまいりました。林業界の厳しさを語るにはまだまだ経験不足ではありますが、研鑽を積み、皆さんの意見に耳を傾けながら組合の運営に努めてまいります。

ウッドショックで賑わった林業界も、木材価格の低迷が続き、担い手不足・再造林率の低迷など課題は山積しています。しかしながら、森林の持つ多面的な機能はすべての国民が享受する財産であり、それを後世に残すことが私達に課せられた使命であると考えます。

私は当会の目的に鑑み、理事としての職責を全うすべく尽力する所存ですので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



村上 由紀夫

(宮崎県森林組合連合会 監事)

このたび6月29日の臨時総会において監事に選任されました村上と申します。私は、昭和54年から昨年まで43年間、当会の職員として勤務させていただきました。多くの方のご指導のおかげで長年勤務することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

現在、森林や林業に対する需要や期待が高まってきた中、我々森林組合系統は森林管理体制の強化、循環型林業の確立と木材販売力の強化等々課題が山積しています。森林組合系統はこれに丸となって取り組んでいく必要があると思います。

私も微力ではありますが当会発展のために尽力する所存ですので、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



## JForest 森林組合綱領

### — 私たち森林組合のめざすもの —

私たち森林組合は、地域の森林管理主体として、地域の森林を協同の力で育て守り続け、森林環境保全と林業発展を通じて、地球温暖化防止へ貢献するとともに、水源の保全、国土の安全、健全な森林環境と良質の木材を国民へ提供しながら、健康で安心、豊かな生活を支えていくことを使命とします。

私たち森林組合の組合員・役職員は、こうした使命を自覚し、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則(自主・自立、参加、民主的運営、公正、連帯等)に基づき行動します。そして、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、平和とより民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、私たち森林組合の組合員・役職員は、次のことを宣誓し、責任をもって行動します。

一、森林の恵みに感謝し、地球環境保全のため、豊かな森林を未来に引き継ごう。

一、森林を守り育て、林業と山村を活性化しよう。

一、JForest 森林組合への積極的な参加によって、協同の力を発揮しよう。

一、自主・自立、民主的運営を基本に、開かれた組合経営を目指そう。

一、協同の理念と誇りある仕事を通じて、共に生きがいを追及しよう。

## (株) ゼロ・コーポレーションによる 植樹プロジェクトの開催

京都市に本社をおく株式会社ゼロ・コーポレーションは、令和2年12月18日に宮崎県、宮崎県木材協同組合連合会、当会との4者間で「森林資源の循環利用推進に関する協定」を締結し、公益的機能発揮に向けた多様な森林づくりや林業担い手の確保・育成を図るとともに、宮崎県産材の安定供給体制の構築や新たな県産材需要の創出を通じて、宮崎県の森林資源の循環利用に貢献しています。同社は、2012年より建築する木造住宅の全棟に宮崎県産の木材を使用しており、同協定により1年間に引渡しした棟数に使用した柱の本数分に必要な苗木を山に還すことで、再造林を支援し、健全な山や森林の循環サイクルに貢献する「苗木を還そうプロジェクト」の取組をスタートしました。この取り組みにより、令和3年度には462万円、令和4年度には496万円を宮崎県に寄付しています。これら寄付金は、県内各森林組合に配分され、再造林支援金として活用されています。

この度、同社による植樹プロジェクトが清武町山林にて4月20日に開催され、宮崎県及び宮崎中央森林組合の協力のもと同社 菊本雅幸 代表取締役社長をはじめ、従業員6名により少花粉スギ苗木100本が植樹しました。

菊本社長らは苗木100本すべてを植樹したのち、幼齢林等の造林地の視察を行いました。保育作業や成育状況等について熱心に質問されており、菊本社長は「今回の植樹体験により、林業が改めて重労働だと認識した。宮崎県の森林資源の循環利用を促進するためにも今後も支援していきたい。」と、今後も継続的に同事業に取り組んでいくと述べました。



菊本社長植栽の様子



ゼロ・コーポレーションの皆様

## 「JForest 令和の森」 下刈り作業を実施

当会では、森林環境保全と林業発展を通じて、地球温暖化防止へ貢献するとともに、水源のかん養、国土の保全、健全な森林環境と良質な木材を提供しながら健康で安心、豊かな住生活を支えていくことに取り組んでいます。その一環として、宮崎市田野町字西平にある0.4haの伐採跡地において、「JForest 令和の森記念植樹」を令和2年3月に行い、毎年下刈り保育作業を実施しています。

今年は、梅雨時期にもかかわらず天候にも恵まれ、6月17日に当会職員約20名により、下刈り作業を実施しました。

作業は、手鎌班と下刈機班の2班に分かれ、まず背丈程まで茂ったカヤ等の下草を手鎌班が刈り、その後下刈機班が整理・全刈りを行いました。

カヤ内は蒸し暑く、傾斜地の下刈り作業が重労働であることや、下草の有無が苗木の成育状況に影響

を及ぼすことを実感し、下刈り作業の重要性を再認識する良い機会となりました。

現在、このような森林整備作業に係る担い手の不足が問題となっております。近年の旺盛な木材需要に対し確実な再造林は喫緊の課題ではありますが、その後の保育作業については、高齢化や重労働等の理由から担い手不足の状態が続いています。今後は人材確保と平行して、省力化が重要です。

当会はこのような体験を活かして、機械化・ICT化等、保育作業の労務軽減対策に取り組んでまいります。



作業の様子



集合写真

## 松くい虫薬剤防除を実施

宮崎県の松くい虫被害量は、平成25年度までは約3,000㎡で横ばいでしたが、平成26年度には約4,000㎡に増加し、平成27年度には4,985㎡まで増加しました。平成28年度以降は被害量が減少傾向に転じ、近年は、関係市町村や森林管理署、事業者等による薬剤防除や伐倒駆除の成果で1,000㎡未満の被害量となっており、被害の多かった平成27年度と比べると、約5分の1にまで減少しました。これまでの防除対策の効果が現れているものと考えられます。

一方、令和4年度は推計ではありますが、県全体で956㎡となり、対前年比で114%と微増となっております。今後も被害が増加する可能性も考えられることから、引き続き徹底防除に努めていく必要があります。

当会は、宮崎市の一ツ葉海岸沿いの石崎浜から木

崎浜周辺等の松林(478ha)の松くい虫薬剤防除事業を受託し、5月10日から5月15日にヘリコプターによる薬剤散布を実施しました。

今年度は天候にも恵まれ、予定どおり4日間(土日除く)で実施し、早朝から当会職員をはじめ関係者が、ヘリコプターへの薬剤積み込みや散布区域周辺の立入規制、走行車両への注意呼びかけ、散布状況の確認などを行いました。

今後も、当会では全国的にも貴重な宮崎県の海岸松林の保護に努めていきます。



薬剤積み込み



薬剤調合の様子

## 宮崎県森林組合職員連絡協議会 臨時総会及び役員会を開催

県下の森林組合職員で組織する宮崎県森林組合職員連絡協議会は6月15日に、退職・退任した役員の補欠選任を諮るため臨時総会を開催しました。書面議決書を含め賛成多数、原案通り可決しました。

また臨時総会后、同日に開催した役員会では、コロナ禍を乗り越えて5年ぶりの開催となる第55回職員連絡協議会大会を成功させるべく協議を重ねました。この大会が県内の森林組合職員の交流と発展

につながるよう尽力しております。



役員会の様子

新役員名簿( )は支部名(敬称略)

理事 瀬尾朋行(都城)  
監事 阿部和弘(南那珂)

# 森林保険

火
風
水
干
凍
雪
潮
噴火災害

火災、台風等による気象災害及び噴火災害などの、いつ起こるか分からない森林災害のリスクから、少ない掛金で手厚い補償を行い、森林の復旧や森林経営をサポートする森林保険を取り扱っています。

加入してよかった!

森林保険は、災害による経済的損失を補填することにより**林業経営の安定と災害後の再造林を確実に行うこと**を目的とした保険であり、森林所有者自らが災害に備える唯一のセーフティーネットです。

※ 平成27年4月より森林国営保険が国から(研)森林研究・整備機構へ移管されました。移管後も保険の補償内容に変更はございませんのでご安心ください。

保険金のお支払いの対象となる8つの災害

**火災**  
山火事で燃焼した損害

**風害**  
暴風による幹折れ、横倒しなどの損害

**水害**  
豪雨、洪水による浸水、水没、流失などの損害

**雪害**  
大雪積雪による幹折れ、横倒しなどの損害

**干害**  
乾燥による枯死などの損害

**凍害**  
凍結、凍害による枯死などの損害

**潮害**  
暴風、海水高潮などによる枯死などの損害

**噴火災害**  
火山噴火による焼損、幹折れ、横倒しなどの損害

お申し込みは簡単!

お近くの森林組合、森林組合連合会にお気軽にお問い合わせください。



# みやざき森林経営管理支援センター 活動報告 (Vol.4)

## 当支援センターの設置

森林経営管理制度は、私有人工林の中で経営や管理がされない恐れのある森林を選定して所有者に意向調査を行い、「市町村に管理を委ねたい」と回答された森林の中で森林整備が必要であると判断した場合は、集積計画を立てて管理することができるという制度です。

制度の内容は理解できても、実際に意向調査を進める際に、市町村の多くは林業の専門知識を持った職員がおらず、また、数年で異動がある上に通常業務も多くかかえ、この制度に取り組むことは非常に困難です。

そこで、この制度の中心的役割を担う各市町村に対して実情に応じた指導・助言等の支援を行えるように、令和3年4月に県からの委託を受けて当支援センターが設置されました。

## 市町村担当者の皆様へ

前年度末の進捗を見ますと、制度の対象となる森林がない諸塚村を除く25市町村で意向調査を開始しました。市町村が自ら実施する、或いは、森林組合やコンサルタント等に業務を委託するなど実施の方法は様々ですが、何とか意向調査まで進むことができました。これから意向調査の回答を整理されると思いますが、「市町村に管理を委ねたい」と回答された方へどのように対応すればよいか、すなわち、集積計画を作成するか、保留するか、断るかを判断していくことになります。

当支援センターは、皆様が困った時の相談を受けやすくするために、市町村毎に受付窓口を割り振りました。受付窓口といっても電話等での最初の連絡

窓口であり、市町村に出向くときや現場指導は従来どおり2名以上で伺います。

また、本年度は、制度の進捗情報を共有するために、市町村巡回訪問をする計画です。そして、制度を進める上での諸々の相談・要望等をお聞きし、諸問題の解決に向けて助言したいと思います。市町村毎に職員配置や対象とする森林の条件が異なっており、制度推進上の問題点も様々ではないかと思えます。今後、個別に訪問をしますのでお気軽に御相談ください。

なお、巡回訪問とは別に相談があればいつでもお伺いしますので御連絡ください。

## 森林組合の皆様へ

地域の林業の実情に詳しい森林組合は、意向調査の事前準備や実施、林業経営に適した森林か否かの判断材料の提供、市町村森林経営管理事業の受託など市町村から大いに頼られています。この制度を進める上で重要な役割を担っている森林組合の皆様には、市町村からの協力要請に対して今後とも御協力をよろしくお願いします。



訪問の様子

## ご存知ですか? 「林退共」の退職金制度

### 林退共制度は・・・

林業で働く人たちのために、国が作った退職金制度で、安全・確実に従事者の皆様へ退職金をお支払します。

### 事業主のメリットは・・・

◎税法上の扱い 事業主が払い込む掛金は、法人では損金、個人では必要経費として全額非課税となります。  
◎国の補助 新たに加入した従事者は、掛金の一部が免除となります。

お問い合わせはこちらまで

独立行政法人勤労者退職金共済機構

林業退職金共済事業本部

TEL03-6731-2889

## 森林組合初任職員研修会及び 森林組合初任職員フォローアップ研修会を開催

当会では5月18日から19日の2日間にかけて、新入職員を対象とした「初任職員研修会」をJForest ビル大会議室にて開催しました。本研修会は県内の各森林組合より総勢21名が参加し、「就業規則」、「森林・林業の現状と森林組合系統組織」、「接遇マナー」、「メンタルヘルス」、「コミュニケーション能力の向上」、「高性能林業機械」の研修を通じて、社会人・森林組合職員としての基礎知識やマナーなどを学びました。

また、6月22日から23日の2日間には、入社より3年以内の若手職員を対象に、資質・実務能力の向上を支援することを目的とした「森林組合初任職員フォローアップ研修会」を開催しました。本研修会は19名が参加し、「簿記・会計」、「事務文書作成の



VR体験の様子

基本」、「コンプライアンス」「林業労働安全（VR体験）」など、事務・会計業務、現場での安全作業に関わる知識や体験を得られました。

研修後のアンケートでは、「敬語の使い分けや電話応対が難しく、もっと時間をかけて学びたい」などの意欲的な意見や、「宮崎県のエ業は全国的にも有名ということを知り、上位を保つためにも自分たちが頑張らないといけないと思った」など将来を担う決意を述べたものが多くありました。

当会では今後も階層別研修会を企画し、職員の資質上に努めてまいります。



研修会の様子

## 令和5年度全国若手職員研修会に参加

令和5年5月16日と17日の2日間で、全国森林組合連合会の会員団体に所属する入会3年目以内の者を対象とした「令和5年度全国若手職員研修会」がC I V I研修センター日本橋5階N5ホールで開催されました。

この研修会は森林組合系統の将来を担う職員として必要な知識を身に付けること、他組織の若手職員との交流を深めることを目的としており、今年度は全国から計55名が参加し当会からも2名が参加しました。

研修1日目に「森林・林業の現状と森林組合系統組織」、「購買事業及び林業労働安全対策の取組」、「林業労働力の育成・確保の取組」、2日目に「販売事業及びJForest グループ連携による取組」、「森林

組合系統に求められるコンプライアンス」、「グループワーク」といった講義がありました。

全国の若手職員が集い意見交換することで、同じ現場サイドでの問題点や今後の課題、アイデア等の情報交換ができる良い機会になりました。今回の研修で学んだ事を、各自の職場で発揮できるようこれからも頑張ります。（参加者：谷口・相馬）



集合写真

# 木 材 市 況

各センターの取扱量については、梅雨に入り雨が多かったことから、今年6月は、販売量が46,114㎡と、前年同月比19%減少しました。6月の平均単価は11,568円/㎡で、前年同月比2,150円/㎡の値下げとなっています。

また、各センターの4月から6月までの3か月間の取扱量は150,086㎡で、平均単価は11,828円/㎡となりました。前年同期比で取扱量は6%減少、平均単価は2,003円/㎡安くなっています。

今後の動向については、引き続き国産材製品の動きが悪く、原木価格は厳しく横ばいの状態にありますが、国内の秋需に期待し、原木価格の上昇に向けて取り組んでいきたいと思えます。

また7月9日からの九州地方を中心とした記録的な大雨で、広範囲にわたり土砂災害や河川の氾濫などが発生しました。これから山間部の被害状況もわかってくるとは思いますが、今後の伐採、搬出への影響も予想されているところです。熊本・大分の原木市場において、一部原木価格の反発が見受けられており、今後の動向に特に注視していく必要があります。

市況については、当会ホームページに各林産物流通センターの最新市況を掲載しています。出荷時期、造材等についてご不明な点がございましたら、各センター担当までご相談下さい。

## 宮崎県森連 各センター素材市況 中値（7月上旬）

（単位：円/㎡）

樹種	長さ	径級	高千穂・五ヶ瀬	東郷	宮崎	都城	高原	日南
スギ	2.0	3～14	-	-	-	-	-	-
		16～28	8,000	-	-	-	8,000	-
	3.0	3～7	8,200	-	-	-	-	10,000
		8～11	10,000	-	8,300	10,800	-	9,600
		12～13	12,500	12,000	12,400	12,600	13,000	-
		14	13,500	14,500	13,000	14,900	14,000	-
		16～18	14,200	14,500	14,400	14,200	14,500	13,300
		20～22	12,800	13,200	12,500	12,700	12,300	12,500
		24～28	13,000	13,500	12,300	13,300	13,400	12,700
		30～	12,200	12,500	12,100	12,500	12,300	12,400
	4.0	3～7	13,600	-	11,400	-	-	14,300
		8～11	12,500	-	12,600	12,300	12,300	12,300
		12～14	12,500	14,100	13,200	13,400	13,300	12,000
		16	15,300	15,000	14,000	13,800	14,600	14,000
		18～22	13,000	13,000	12,800	12,400	12,500	12,600
		24～28	12,800	13,000	12,000	12,200	12,000	12,400
		30～	12,500	12,800	11,900	12,100	12,000	12,600
	6.0	16～18	22,000	-	-	-	-	-
ヒノキ	3.0	16～18	18,200	18,100	-	15,800	18,800	-
		20～22	17,200	16,200	-	15,000	18,000	-
	4.0	12～13	16,300	12,600	-	12,400	12,500	-
		14～16	20,800	21,000	-	19,100	19,600	-
		18～22	20,700	21,000	-	19,000	19,400	-
	6.0	16～18	-	-	-	-	-	-
マツ	4.2梁材	18～20	-	-	-	-	-	-
		22～24	-	-	-	-	-	-
		26～28	-	-	-	-	-	-

誤伐・盗伐の未然防止に努めるため森林境界等確認を徹底しましょう

●原木を合法木材及び木質バイオマスとして流通させるには、伐採届等の提出及び事業者認定の取得が必要です。